

# 大宮人の吉野宮で、万葉びとはどのように過ごしたのでしょうか？

## －『万葉集』や『懷風藻』から妄想する吉野宮での過ごし方－

【気分爽快！自然を満喫】

### ①船にのって競争？

百磯城の大宮人は 船並めて朝川渡り  
船競い夕川渡る…（巻1・36）

### ②狩りをする

あしひきの 山にも野にも 御狩人  
得物矢手挟み 散動きたり見ゆ（巻6・927）

### ③周辺を探検・散策する

大瀧を 過ぎて夏身に 近づきて  
清き川瀬を 見るが清けき（巻9・1737）

【他にもいろいろ】

### ⑦天皇をたたえる

やすみしし わご大君 神ながら 神さびせす  
と吉野川 激つ河内に 高殿を…（巻1・38）

### ⑧やっぱりお酒？宴会をする

琴を楽しみ酒を交わす宴は終わりそうになく、  
月が吉野の川岸を照らしている。（懷風藻）

【万葉人だって恋したい！恋バナ】

### ④独身を悲しむ

宇治間山 朝風寒し 旅にして 衣貸す  
べき 妹もあらなくに（巻1・75）

### ⑤愛しいあの娘を思う

弓削皇子、紀皇女を偲ぶ御歌  
吉野川 逝く瀬の早み…（巻2・119）

### ⑥伝説の仙女で恋バナ

古に 築打つ人の 無かりせば  
ここもあらまし 柘の枝はも（巻3・387）



宮滝付近の川辺での宴の様子（イメージ）



宮滝付近から北東を望む（鳥瞰図）

宮滝は奈良盆地の南側にあり、  
紀伊山地北縁部に位置します。



### 【宮滝へのアクセス】

#### ●電車の場合：

大阪・京都・名古屋方面からは近鉄・橿原神宮前駅  
経由で、和歌山方面からは JR 吉野口駅経由で大和  
上市駅へおこしください。下車後、バス等で約15分。

#### ●お車の場合：

京都・大阪方面からは国道169号線を、和歌山・名  
古屋方面からは国道370号線をご利用ください。

# 国史跡 宮滝遺跡

## 遺跡紹介リーフレット



本リーフレットに掲載している写真・図版は、全て吉野町所蔵です。  
（復元作画：早川和子氏 航空写真撮影：株式会社アクセス 遺物等撮影：PlusWan）

### 宮滝遺跡は－

宮滝遺跡は吉野町大字宮滝の集落の地下にある、  
約11万㎡の広さの遺跡です。昭和5～13年に実施  
された第1次調査以来、2023年時点で70次に及ぶ  
調査が行われています。調査の結果、宮滝では縄  
文～江戸時代にかけて、断続的に人々の営みがあ  
ったことがわかっています。昭和32年には、宮跡そ  
他等の基準をみだし、”様々な時代の遺物を包含す  
る山地の遺跡”と評価されたことで、遺跡の一部（約  
2.2万㎡）が国史跡に指定されました。

宮滝遺跡で特に注目されるのは、飛鳥～奈良時  
代にかけての遺構です。建物跡などが検出されて  
いるのですが、どうやら飛鳥時代に大きな苑池を  
伴う建物群が整備されたようです。その後、この  
施設は壬申の乱や『万葉集』で知



宮滝遺跡の位置

られる離宮・吉野宮の跡と考えられています。

また、宮滝遺跡は縄文時代の遺跡としても著名  
です。昭和の研究に大きく貢献した宮滝式等の土  
器・石器は、今、奈良県指定文化財となっています。

### 発掘調査でわかってきた、各時代の宮滝のようす

- 縄文時代** ・早期の土器が出土。宮滝で人々の営みがはじまったか。  
・宮滝式などが使われた後期～晩期の土器がおおく出土。
- 弥生時代** ・前期～中期に集落（竪穴建物や方形周溝墓など）が営まれる。
- 飛鳥時代** ・宮滝の中央部に、苑池をとともなう建物群が整備される。  
・苑池状の池よりも西側で、大型建物を中心に整然と並ぶ  
建物群が整備される。石敷きなどを伴う大規模なもの。
- 奈良時代** ・礎石建物一棟などが確認されている。
- 平安時代** ・この頃使われた土器（瓦器碗等）が出土している。
- 鎌倉時代** ・まじないが書かれた土器が確認されている。
- 江戸時代？** ・



宮滝遺跡の調査の様子



編集・発行：吉野町 お問い合わせ先：吉野町役場 産業観光課  
〒639-3192 奈良県吉野郡吉野町上市 80-1 電話：0746-32-3081  
Fax：0746-32-8855 mail：bunkazai@town.yoshino.lg.jp



※吉野歴史資料館のHPでも宮滝遺跡の情報発信を行っています。※QRコード⇒  
→資料館HP) <http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html>



# 宮滝の集落の地下は、ほぼ全域が遺跡になっています。各所でどのような発見があったのか、ご紹介します。

## 大型建物を検出

宮滝遺跡の第41次調査と第69次調査で、東西9間(23.7m)・南北5間(9.6m)の大型建物(掘立柱建物)を検出しました。四面に廂をもつ立派な建物で、屋根の一部には瓦が葺かれていた可能性があります。奈良時代頃の宮滝遺跡の中心施設とみられます。



右) 大型建物の確認状況

宮滝遺跡石碑

## 弥生時代の集落跡と土器の棺

宮滝遺跡では、縄文時代に続いて弥生時代にも人が住んでいたようです。今の宮滝の中央部やや東側で建物の跡が、中央部やや西側～北西部でお墓の跡が見つかっています。第1次調査では、子供用?とみられる土器の棺も見つかっています。この土器棺は近畿初の発見でした。



右) 宮滝出土の土器棺

## 飛鳥時代の池状遺構

第43次・第44次調査で飛鳥時代の池状遺構が確認されました。その形や深さから、お庭の池(苑池)のようなものとみられます。周辺ではピッタリと向きがそろった建物が数棟が確認されており、これらは飛鳥時代・斉明天皇の吉野宮にあたると思われると考えられています。



右) 吉野宮(飛鳥時代)復元模型

## 大型建物は一体何の建物?

大型建物周辺の様子(奈良時代頃)を復元しました。建物の大きさ・規模ともに、とても立派なものです。

これらの建物には”平城宮内裏の瓦”と似た文様の瓦が使われています。こうした情報をふまれば、聖武天皇の行幸があった、離宮・吉野宮の中心施設と評価できるでしょう。



上) 大型建物等の復元イラスト  
右) 出土瓦 左) 出土した土器

宮滝駐在所

## 宮滝式という名前の土器

宮滝遺跡の第1次調査では、後に宮滝式と名付けられる縄文土器が出土しました。土器の側面に、扇形の文様がつく土器です。この”宮滝で初めて見つかったデザインの土器”は、今日、近畿の縄文時代後期を代表する土器であることが分かっています。



右) 宮滝式と施文方法

## 宮滝にはいつから人がいたのか

およそ1万年続く縄文時代のうち、一体いつ頃から宮滝に人が住んでいたのでしょうか。第58次調査で縄文時代早期(縄文時代が始まった頃)の土器がみつき、この頃から人びとの営みがあったことが分かりました。山と川に囲まれた宮滝は、縄文時代の人びとが過ごしやすい場所だったことでしょう。



右) 縄文時代の製粉具(石皿・磨石)

宮滝郵便局



※ターゲットの位置は、本文で紹介している土器や建物のおおよその発見地点を示しています。

### 『日本書紀』『続日本紀』にみる吉野宮の主な記述

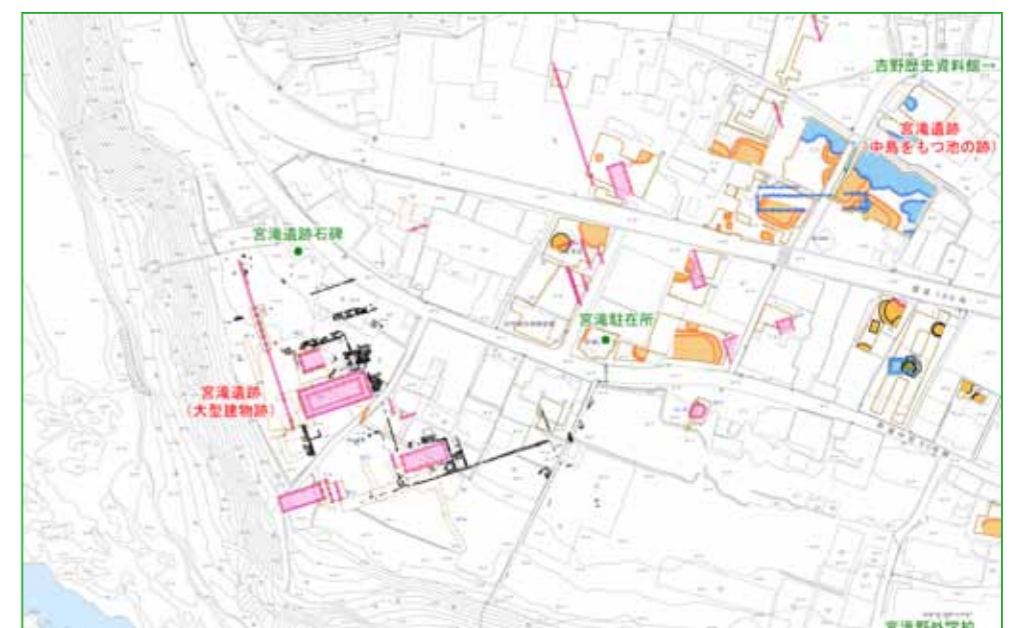
西暦	できごと
656年	斉明天皇、吉野宮をつくる。
659年	斉明天皇、吉野宮行幸。
671年	大海人皇子、大津宮を逃れ、吉野宮に入る。
672年	大海人皇子、吉野で挙兵(壬申の乱)。宇陀・三重を経て不破へ向かう。
679年	天武天皇、皇后や6人の皇子たちと吉野で盟約。
689～697年	この間、持統天皇が吉野宮行幸を31回行う。
701年	文武天皇、吉野離宮行幸。持統太上天皇、吉野離宮行幸。
702年	文武天皇、吉野離宮行幸。
723年	元正天皇、芳野宮行幸。
724年	聖武天皇、芳野宮行幸。
736年	聖武天皇、芳野離宮行幸。

### 奈良時代以降の宮滝に関する主なできごと

西暦など	できごと
898年	宇多上皇、菅原道真らと宮滝行幸。
1185年	源義経都落ち。宮滝周辺に伝説が残る。
鎌倉時代	『源平盛衰記』等に壬申の乱の話掲載。この頃、吉野宮は吉野山とされたか。
1322年	護良親王、吉野山で討幕のため挙兵。『太平記』に宮滝付近の記述が載る。
1336年	吉野山に南朝が開かれる。『吉野拾遺』に南朝関係の宮滝周辺の物語が載る。
時期不明	能の「二人静」や「国栖」など、壬申の乱を扱う芸能が成立。
江戸時代	賀茂真淵・上田秋成ら、吉野宮跡は宮滝と提唱。本居宣長、宮滝で宮跡の伝承を記録する。『大和志』で宮滝が宮跡候補地の一つと紹介される。
明治年間	『大日本地名辞書』、吉野宮跡を宮滝に想定。木村一郎、宮滝で遺物を採取。

### 大正以降の宮滝遺跡・吉野宮にまつわる研究史

西暦など	できごと
大正年間	折口信夫・澤瀉久孝ら、吉野宮を宮滝に想定。山本源次郎、宮滝遺跡顕彰。
1927年	中岡清一と森口奈良吉を中心に、吉野宮の位置をめぐる論争が起こる。
1929年	県技師・岸熊吉、宮滝を予備調査
1930年	末永雅雄、宮滝遺跡第1次調査着手。
1944年	『宮滝の遺跡』が刊行される。
1954年	堀池春峰、吉野宮は比叡寺跡と主張。
1957年	宮滝遺跡の一部が国史跡となる。
1965年	折口信夫、吉野宮は大滝周辺と主張。
1975年	前園実知雄、宮滝遺跡第2次調査。
1977年	菅谷文則ら、壬申の乱の道程を踏査。
1980年頃～	末永雅雄、宮滝が吉野宮跡と主張。
1990年	宮滝遺跡で飛鳥時代の池状遺構検出。
1996年	榎原考古学研究所、『宮滝遺跡 遺構編』刊行。
2000年	縄文時代早期の土器が出土。
2016年	吉野町、宮滝遺跡で大型建物を検出。



宮滝遺跡 各時代の遺構(黄:弥生 青:飛鳥 桃:~奈良) ※榎原考古学研究所1996『宮滝遺跡 遺構編』を基に作成